

仕事を語る会 テーマ 「地域から」 2017.05.13

福田さんの事務所にて、仕事を語る会を行いました。参加者11名（会員外3名、会員8名）でした。

◆壬生さんのお話「私の岡崎地域での活動」

はじめに、壬生さんが建築設計の道へ向かったきっかけからお話いただきました。猿投ダンプ事故をきっかけに、いかにトヨタ自動車以外での仕事に就くかを考えたのが小学校時代のこと。また、朝鮮戦争による景気回復・特需に疑問を抱いたのが高校生のときだったそうです。

豊田高専にて、ブラジリア計画に出会い都市計画に興味を持つようになり、そこから建築設計へと向かうことになったということでした。宅地開発公団や豊田市役所も候補だったようですが、組織設計事務所へ就職し、入社して間もないころから構造計算を行う仕事をしたりしていたそうです。

独立後は新築設計や改修設計を行い、構造系の業務をしていたことから、家の耐震診断（市の無料診断）の診断士として6年間で約30件の耐震診断を行われたそうです。三河やろまい耐震化倶楽部のメンバーとしても活動され、強度計算の重要性などを伝えてこられています。昭和50年代の家は、確認申請との間取りのくい違いや、図面にある筋交いが入っていない物件などが多くあったそうです。また、東日本大震災以降3倍の依頼があったけれど、年月が経つにつれ、以来は減少傾向にあるとのことでした。そのほか、愛知サマーセミナーでの防災、耐震化の講義活動を紹介いただきました。

壬生さんの、建築へ向かったきっかけが印象的で、新建の理念に近いものを小学校時代から感じていらしたように思います。壬生さんのお話は、いつも楽しく、ゆっくりで、不思議な感じがしますが、大事なことを気づかせてくれます。



◆甫立さんのお話「地域の職人をつなげたい」

お父さんが工務店を自営されていたので、小さい頃は大工になりたかった甫立さん。工業高校建築科へ進み、尾鍋先生との出会い、図面が上手なことから、建築設計の道へと向かったそうです。

組織事務所（中央設計）札幌支店にて、18歳から設計業務をされ、日影図、雑用、土日は他の人のお手伝いをしながら、お仕事に専念していたそうです。自分は、0から10までやりたいタイプです、とのことでした。

退職後、約1年間お父さんと共に大工修行（喧嘩もしながら）を経て、徐々に自分のやりたい方向へと工務店と自分の仕事を変えていったとのことでした。そこには新建などの活動から得たものを、仕事にフィードバックさせたり、たくさんつながりを大切にしながら、活動してこられたことがよくわかりました。

今回のお話しの中でも、東京の森・多摩直産の家、ジブンハウス（バーチャル体験による家の選択）、樹の家標準仕様のこと、奈良・東京・大阪・千葉支部などの様々な取り組みの紹介をしていただきました。他支部との関わりからヒントを得て、職人さんにも新建についてお話しするようになったことや、腕の良い職人さんの確保のことなど、これからの愛知支部の活動の方向についても話をしました。

語る会のあと、新規加入いただいた嶋田さんの歓迎会を行い、会員外の参加者も含め、普段の仕事のことなど語り合いながら、貴重な時間を過ごすことができたと思います。会員外の参加者から「新建のみなさんと居ると建築がやりたくなります」という言葉をいただきました！

（報告 黒野晶大）